

第69回中小企業団体全国大会 受賞おめでとうございます

【優良組合】



協同組合秋田木材コンビナート
(理事長 大坂 真一 氏)

【組合功労者】



小玉 真一郎 氏
(秋田県酒造協同組合 理事長)

【中央会優秀専従者】



加藤 謙太
(事業振興部副部長(兼)
工業振興課長)



[本県から参加された皆さん]

TOPICS 2 【特集】県内の『元気で頑張っている商店街』をご紹介します！

地域コミュニティの担い手である商店街は、地域の魅力を発信し、地域の活力を向上させる役割を果たしています。本号では、地域のにぎわいを創出するために励んでいる商店街を取り上げましたのでご覧ください。

横手駅前商店街振興組合(齋藤善一理事長) ～駅前再開発を契機に商店街が活性化～

当組合の所在する横手駅前地区は、かつては横手市で最も活気のある商業エリアでしたが、郊外型の大型店や専門店などの進出により、次第に勢いが衰え、集客の核だった大型店の撤退や総合病院の移転により、通行量の減少と店舗の廃業が進んでいました。

このような状況のなか、組合では、6年前の横手駅改装に伴う横手駅東口の再開発で誕生した複合施設「よこてイースト」との連携に活路を見出し、地域の伝統行事とタイアップしたイベント等を次々に開催することで、商店街の再生を図ろうと取り組んでいます。



[納涼ビアガーデンの様子]

よこてイーストのにぎわい広場を利用した「納涼ビアガーデン」では、商品PRを兼ねた組合員の屋台が軒を連ね、商店街の各所で演奏される「YOKOTE音FESTIVAL」では、ロックやジャズなど、ジャンルを超えた音楽が繰り広げられます。

また、秋冬には地域製品の販売や親子参加型のイベントを楽しむ「よこてイーストまつり」や、雪のスベリ台や雪像制作、イルミネーション装飾をあしらった「光と雪の芸術まつり」が開催されています。

現在、組合では『横手駅前にかつてのにぎわいを取り戻そう』を合い言葉に、若手や女性を中心となって発足したプロジェクトチームを軸に企画・運営が行われています。

横手駅前に集まるファンが増えていることを実感していると話す高橋事務局長は、「にぎわいを実感できる空間づくりと幅広い年齢層が楽しめる市民参加型のイベントを継続しながら、組合一丸となって横手駅前を盛り上げていきたい。」と抱負を語っています。

大館市大町商店街振興組合(山城久和理事長) ～周辺の商店街と連携した取組を実施～

当組合は、大館市の中心部に位置しており、大館アメッコ市や大館神明社祭典などのイベントではメイン会場として利用されるなど、地域住民とともに密に繋がっている歴史ある商店街です。

しかし、近年は郊外への大型商業施設の進出などにより客足が減り、特にここ数年間は老舗店舗の閉店が相次ぐなど、組合単独での大規模イベントの実施が難しくなっていました。

そこで当組合では、周辺の商店街と連携することで様々なイベントを開催し、地域の活性化に取り組んでいます。

大館市御成町二丁目商店街振興組合など市内の商店街との連携により約30店舗の店主等が講師となり、商品やサービスに関する講座を開く『大館まちなかゼミナール(通称「大館まちゼミ」)』や、商店が自ら積極的に客を獲得するため、昼休み時間帯に大館市役所(本庁舎、比内庁舎及び田代庁舎)で出張販売を行う『おでかけ商店街』等を展開することで、客待ちの

姿勢を見直し、個店の魅力を高めることで、来街者数の増加や売上アップを目指しています。



[おでかけ商店街の様子]

当組合の山城理事長は、「個店においては顧客をしっかりと確保してもらいたい。組合では、その個店の努力に対して、上記の取組を通じて誘客のお手伝いをしていく。また、買い物だけではなく、商店街が本来持っている地域住民の交流の場としての機能を充実させていきたい。」と話しています。

秋田市通町商店街振興組合(佐藤政則理事長) ～商店街をもっと身近に～

佐竹藩の町割り(町づくり)により発展した秋田市通町は、高級商人の町として商業が栄え、約600メートルの街区には江戸時代からの老舗商店が多く残ります。平成5年には、建物のデザインの統一、色づかいを調和させた町並み、お年寄りや障害を持つ人にも配慮された歩道などのハード面が整備され、「通の街」としてリニューアルしました。

その後、青年部が中心となり、1年を通じて様々なイベントが行われる賑やかな街づくりを目指して、あきた舞妓を招いた打ち水イベントや、サイコロの目に従い各店舗を巡る商店街スゴロク、顔にキツネ風メイクをした商店街関係者や来街者が、地域住民の「福」を祈念しながら商店街周囲を練り歩く「招福 狐(きつね)の行列」など、バラエティーに富んだイベントが次々と開催されるようになりました。



[あきた舞妓とのイベントの様子]

当組合の青井専務理事は、「イベントを通じて、来街者に商店街を身近に感じてもらい、商店との距離感をもっと近づけたい。敷居を下げることで、気軽に入店いただけるようになれば、各店舗の売上アップに繋がってくる。商店街の店々を巡っていただけるような工夫をこれからも施していきたい。そして、人と人を温かく繋ぐ『ハブ』の役割となる商店街になることを目指します。」と話しています。

当組合では、イベント実施後に各店舗の売上や来街者数の増減を検証する機会を設けることで、次回の企画に反映させながら、常にバージョンアップをしています。

秋田県商店街振興組合連合会の平澤理事長は「地方の商店街は、来街者を増やそうと知恵を出し合い、各々が必死に頑張っています。近隣の商店街に足を運んでいただき、街並みを眺めながら買い物を楽しむことを是非体験していただきたい。」と話しています。

にぎわいを創出するための商店街の取組は、地域コミュニティ活性化の鍵となります。それぞれの使命感をもって地域を盛り上げようと、元気で頑張っている商店街の取組に今後とも注目ください。